

# 小児外科

## 1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	2 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	2 人	

## 2 教員の異動状況

川原央好 特任准教授（採用）（平成 25 年 4 月 1 日）～現職

小倉 薫 特任講師（採用）（平成 26 年 4 月 1 日）～現職

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	5 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	7.24	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	3 編	(3 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.73	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Kawahara H, Tazuke Y, Soh H, Yoneda A, Fukuzawa M: Does laparoscopy-aided gastrostomy placement improve or worsen gastroesophageal reflux in patients with neurological impairment? J Pediatr Surg, 49, 1742-1745, 2014. [IF: 1.311]
  2. Kawahara H, Tazuke Y, Soh H, Yoneda A, Fukuzawa M: Physiological analysis of the effects of rikkunshito on acid and non-acid gastroesophageal reflux using pH-multichannel intraluminal impedance monitoring. Pediatr Surg Int, 30, 927-931. 2014. [IF: 1.061]  
インパクトファクターの小計 [2.372]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Muto M, Matsufuji H, Tomomasa T, Nakajima A, Kawahara H, Ida S, Ushijima K, Kubota A, Mushiake S, Taguchi T: Pediatric chronic intestinal pseudo-obstruction is a rare, serious, and intractable disease: A report of a nationwide survey in Japan. J Pediatr Surg, 49, 1799-1803, 2014. [IF: 1.311]
2. Etani Y, Nishimoto Y, Kawamoto K, Yamada H, Shouji Y, Kawahara H, Ida S: Selenium deficiency in children and adolescents nourished by parenteral nutrition and/or selenium-deficient enteral formula. J Trace Elem Med Biol, 28, 409-413, 2014. [IF: 2.491]
3. Inamura N, Kubota A, Ishii R, Ishii Y, Kawazu Y, Hamamichi Y, Yoneda A, Kawahara H, Okuyama H, Kayatani F: Efficacy of the circulatory management of an antenatally diagnosed congenital diaphragmatic hernia: outcomes of the proposed strategy. Pediatr Surg Int, 30, 889-894, 2014. [IF: 1.061]  
インパクトファクターの小計 [4.863]

## (2-1) 論文形式のプロシーディングズ

## (2-2) レター

## (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 川原央好、田附裕子、曹英樹、米田光宏、山田寛之、庄司保子、恵谷ゆり、位田忍、福澤正洋. 硫酸アトロピン療法（静注）. 小児外科 46:1-29-1032,2014 [IF:0]  
インパクトファクターの小計 [ 0 ]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### (4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 川原央好. 胃食道逆流症. 小児科診療 小児の治療指針 診断と治療社 東京 pp660-662、2014
  2. 川原央好. 食道アカラシア. 小児科診療 小児の治療指針 診断と治療社 東京 pp663-664、2014
  3. 川原央好. 肥厚性幽門狭窄症. 小児科診療 小児の治療指針 診断と治療社 東京 pp665-667、2014
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### (5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. Watanabe T, Arai K, Takahashi M, Ohno M, Sato K, Fuchimoto Y, Wada T, Ida S, Kawahara H, Kanamori Y: Esophago-gastric motility and nutritional management in a child with ATR-X syndrome. *Pediatr Int*, 56, e48-51, 2014. [IF:0.731]  
インパクトファクターの小計 [0.731]

#### 4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 26 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	2 件	(970 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	1 件	(20 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	5 件	(108 万円)

##### (1) 文部科学省科学研究費

川原央好

基盤研究 (C) (平成 26 年度-28 年度) 380 万円 (2014 年分は 150 万円)

重症心身障がい児の胃食道逆流症の病因としての上部消化管 motility 異常の解明

小倉薫

基盤研究 (B) 590 万円 (平成 25 年度—27 年度) (広島大学からの継続)

小児肝がん国際共同臨床試験に向けた新たな治療戦略のための分子基盤の構築

(2) 厚生労働科学研究費

川原央好

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金 20 万円

難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業 課題番号: H26-難治等(難)-一般-045)

研究代表者 九州大学小児外科教授 田口 智章

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

## 6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	2 件
(4) 学会開催回数	0 件	1 件
(5) 学会役員等回数	0 件	7 件
(6) 一般演題発表数	1 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

Kawahara H, Tazuke Y, Soh H, Yoneda A, Fukuzawa M. Does laparoscopy-aided gastrostomy placement improve or worsen gastroesophageal reflux in patients with neurological impairment? 47<sup>th</sup> Annual Meeting of Pacific Association of Pediatric Surgeons. 2014 年 5 月 26 日 Banff, (Canada)

ポスター発表

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名  
第 19 回日本小児外科漢方研究会 2014 年 10 月 30 日 兵庫県淡路島夢舞台国際会議場
- 2) 学会における特別講演・招待講演

3) シンポジウム発表

4) 座長をした学会名

第 51 回日本小児外科学会学術集会

2014 年 5 月 10 日 大阪

第 30 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

2015 年 2 月 13 日 神戸

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 日本小児外科学会 評議員
2. 日本静脈経腸栄養学会 学術評議員
3. 日本静脈経腸栄養学会東海地方会 評議員
4. 日本小児消化管機能研究会 幹事
5. 日本小児外科漢方研究会 幹事
6. 日本小児外科代謝研究会 幹事
7. GERD 研究会 特別会員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

Surgery Today	4 回	(日本外科学会)
Pediatrics International	2 回	(日本小児科学会)
Digestion	2 回	(スイス)
JSM Gastroenterology and Hepatology	1 回	(アメリカ)

## 9 共同研究の実施状況

	平成 26 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

## 10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	0 件

## 11 受賞

(1) 国際的な授賞

(2) 外国からの授与

(3) 国内での授賞

J-FD 研究会 優秀演題 平成26年11月8日 (奨学寄附金50万円)

川原央好「胃食道逆流の病因としての胃排出遅延の意義についての検討」

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 静岡新聞 びぶれ 2014年11月13日 12ページ 「子どもの便秘と遺糞症」